

報告第12号

北浦総合産業株式会社の経営状況に関する書類の提出について

このことについて、地方自治法第243条の3第2項の規定に基づき、別紙のとおり提出します。

平成24年9月4日提出

延岡市長 首藤正治

## 北浦総合産業株式会社 平成 23 年度 決算報告

平成 23 年度の総売上は 190,969,411 円で、前年比 87.46% (前年対比 27,387,458 円減) という結果となり、決算においては当期純損失(税引後)が、△6,592,303 円(前年比△3,665,953 円)、累積の欠損金については、△22,197,210 円となった。

その主な要因は、北浦診療所の公設民営化による派遣事業の規模縮小 (△20,215,518 円) 東日本大震災による経済活動の減少、塩釜の消失による塩製造事業停止による売上減少 (前年比△3,900,055 円) とその特別損失 (△1,566,539 円) があげられる。

### ○浜木綿村 (ケビン・常設テント・オートキャンプ場・テニスコート・パークゴルフ場)

浜木綿村が繁忙期となる 5 月から 9 月にかけての利用が特に減少した。(△160 万)

原因は東日本大震災による自粛ムードがベースとなり、特に海に面した場所であることから利用者が減少したものと思われる。

また、実施予定だったブルーツーリズムも、事業そのものの見直しの必要性から実施には至らなかった。

### ○ミニシアター

平成 22 年度は、口蹄疫の影響から利用が激減したが、今年度はいくらか回復し利用者数は増加した。

### ○道の駅 物産販売所・軽食コーナー

平成 22 年度と比較し、若干売上は減少したものの (△140 万)、仕入れの見直しなどにより収益は前年とほぼ同額に近い内容 (△30 万) を維持できた。

### ○レストラン海鮮館

レストランにおいては、ほぼ前年並みを維持することができた。前半は、他の部門と同様に震災の影響からかなり厳しい状況であった。しかし、秋口になると伊勢えび祭りも前年を上回り、春先に実施したカンパチフェアや新メニューの豆乳ランチも好評であり、挽回できた状況であった。

### ○末越レジャーパーク

利用者の高齢化やゴルフ人口の減少に加え、施設の老朽化が進み難しい状況である。ただし、数年前に比べ、かなり延岡市内からの新規の客も増えてきており、サービス向上を目指して取り組んでいる。また、新たに延岡ゴルフクラブと企画したオープンコンペを実施し、126 名の参加があった。今後も引き続き、実施していきたいと考える。

### ○塩・にがり製造

以前から釜の基礎部分がひどく傷んでおり、塩の在庫も確保できていたことから、秋口に釜の補修を行った。しかしながら、その後の火災により消失してしまい 12 月から製造と販売ができなかった。平成 24 年 10 月の再開を目指し、努力しているところである。

決 算 報 告 書

( 第 16 期 )

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

北浦総合産業株式会社

延岡市北浦町古江3337番地1

# 貸借対照表

平成 24 年 3 月 31 日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流動資産】	【 16,940,725】	【流動負債】	【 12,188,803】
現金及び預金	13,594,098	買掛金	4,211,572
売掛金	250,750	未払金	6,106,103
商品	1,052,760	預り金	1,390,128
貯蔵品	433,117	仮受金	60,100
立替金	26,000	未払法人税等	208,500
仮払金	12,000	未払消費税	212,400
未収入金	1,572,000		
【固定資産】	【 2,400,868】	負債の部合計	12,188,803
(有形固定資産)	( 1,607,944)	純資産の部	
建物附属設備	1,383,422	【株主資本】	【 7,152,790】
機械装置	45,356	(資本金)	( 29,350,000)
車両運搬具	1	資本金	29,350,000
工具器具備品	179,165	(利益剰余金)	( Δ22,197,210)
(無形固定資産)	( 592,924)	繰越利益剰余金	Δ22,197,210
電話加入権	592,924		
(投資その他の資産)	( 200,000)	純資産の部合計	7,152,790
販売保証金	200,000		
資産の部合計	19,341,593	負債及び純資産の部合計	19,341,593

損 益 計 算 書

自平成 23 年 4 月 1 日  
至平成 24 年 3 月 31 日

科 目	金 額	円
【純 売 上 高】		
利 用 料 収 入	22,394,619	
販 売 収 入	51,641,545	
飲 食 収 入	57,365,166	
外 注 収 入	1,305,581	
受 託 料 収 入	58,262,500	190,969,411
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	4,889,221	
商 品 仕 入 高	57,356,404	
合 計	( 62,245,625)	
期 末 棚 卸 高	1,052,760	61,192,865
売 上 総 利 益		( 129,776,546)
【販売費及び一般管理費】		
広 告 宣 伝 費	964,287	
役 員 報 酬	4,209,800	
給 料 手 当	15,497,819	
賞 与	3,561,300	
雑 給	59,073,221	
法 定 福 利 費	11,896,926	
厚 生 費	2,433,338	
減 価 却 費	405,989	
賃 借 料	3,115,276	
修 繕 費	1,779,738	
事 務 用 品 費	20,848	
消 耗 品 費	3,252,637	
水 道 光 熱 費	10,850,742	
旅 費 交 通 費	126,443	
租 税 公 課	4,813,150	
交 際 接 待 費	29,131	
保 險 料	578,740	
通 信 費 運 搬 費	1,107,863	
諸 会 費	136,600	
燃 料 費	2,169,476	
委 託 料	8,380,366	
会 議 費	15,770	
雑 費	310,162	134,729,622
営 業 損 失		( 4,953,076)
【営業外収益】		
受 取 利 息	3,346	
受 取 補 助 金	100,000	
雑 収 入	32,466	135,812
経 常 損 失		( 4,817,264)

科 目	金 額	
【特別損失】 固定資産除却損  税引前当期純損失 法人税、住民税及び事業税 当期純損失	1,566,539	円 1,566,539
		208,500
		( 6,592,303)

## 株主資本等変動計算書

自平成23年4月1日至平成24年3月31日 単位 円

	株主資本				純資産の部
	資本金	利益剰余金		株主資本	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金		
当期首残高	29,350,000	△15,604,907	△15,604,907	13,745,093	13,745,093
当期変動額					
当期純損益金		△6,592,303	△6,592,303	△6,592,303	△6,592,303
当期変動額合計		△6,592,303	△6,592,303	△6,592,303	△6,592,303
当期末残高	29,350,000	△22,197,210	△22,197,210	7,152,790	7,152,790

# 個別注記表

自平成23年4月1日  
至平成24年3月31日

## I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

時価のないものを原価法により評価しています。

時価のあるものは保有していません。

#### ② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品は総平均法による原価法により評価を行っていますが、塩竈小屋焼失のため当期製品在庫はありません。

商品及び貯蔵品は、最終仕入原価法により評価を行っています。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産 定率法を採用しています。

#### ② 無形固定資産 保有していません。

### 3. 引当金の計上基準

いずれの引当金も計上していません。

### 4. 収益及び費用の計上基準

収益は、商品・製品の販売については、引渡・検収基準により計上し、ケビンの予約収益については、事業年度の末までに役務の給付が完了した分を計上し、残額は貸借対照表の夫妻の部に計上して翌期以降に繰延べを行っています。費用は債務確定主義により計上していますが、短期前払費用については、支払日ベースで費用計上を行っています。

### 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

#### ① リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

#### ② 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

### 6. 会計方針の変更

当期に会計方針の変更はありません。

## II. 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	6,514,379円
2. 資産に係る減損損失累計額	0円
3. 取締役等に対する金銭債権	0円
4. 取締役等に対する金銭債務	0円

## III. 株主資本等変動計算書

1. 当該事業年度の末日における発行済株式の数	587株
2. 当該事業年度の末日における自己株式の数	0株
3. 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項 当該事業年度中に行った剰余金の配当はありません。	
4. 当該事業年度の末日後に行なう剰余金の配当 当該事業年度の末日後に剰余金の配当を行う予定はありません	

## IV. 損益計算書に関する注記

当会計期間において、固定資産除却損1,566,539円を特別損失に計上しています。

固定資産除却損を計上した資産は以下のとおりです。

建物付属設備	1,552,049円
器具及び備品	14,490円

(固定資産除却損を計上するに至った経緯)

平成23年12月4日に発生した火災による塩竈小屋の焼失により使用不能となったため、期首帳簿価額を固定資産除却損として計上しました。



台 籍 業 界 勉 辛 記 類 平

業 界

同 類

容 内

付 録 表 紙

大 小 冊 子

同 類

100732 2 1 1918

V. その他の注記

併 添

貸 引 簿

金 簿

丁

テニスコート

本 誌 記 載 大 小 冊 子

一 覧 表

大 小 冊 子

食 宝 倉

附 録

同 類 非

本 誌

100732 2 1 1918

同 類 大 小 冊 子

同 類 非

大 小 冊 子

一 覧 表

同 類 非

丁

同 類 非

平成 23 年 度 事 業 報 告

期間	事業名	内 容
4/1		夏休みケビン宿泊受付
4/17	干しものづくり体験	みちくさ主催:宮崎市内から参加者約12名
5/3 ~ 5/5	こいのぼりフェスティバル	ニジマス釣堀、売店前物産展、北浦の味フェア、ぬりえ発表会など
5/3	鏡山スカイスポーツフェスタ	イベントへの商品提供
5/22	津波防災訓練	施設各所からの避難時間経路の確認など
5/28	宮崎県建築士会 総会	ミニシアター・ケビンなど貸切利用
6/10	平成24年 定時株主総会	道の駅ミニシアターにて
6/12	北浦島浦横断遠泳大会	11日前夜祭 UMK取材あり
6/30	シーニックバイウェイ総会	佐伯市にて
7/2	連合宮崎	レクレーション100名にて
7/9	下阿蘇ビーチ海岸清掃	夏休み前のビーチクリーン 地域の方たちと一緒に海水浴場の整備
7/16	海開き	合同神事 須美江海水浴場
7/14 ~ 8/31	宮崎県道の駅	スタンプラリー
8/13 14	絵画展	商工会議所/ミニシアター
8/16	北浦納涼花火大会	イベント協力
8/18 19	少年自然の家合同キャンプ	むかばき・えびの・青島合同の主催事業
8/31	海水浴場 閉鎖	
9/2~11/30	東九州伊勢えび海道伊勢えび祭り	海鮮館 セット 734食 定食 1035食 /前年比10パーセント増
10/14		延岡市議会との意見交換会
10/20 21	北浦町楠並木物産展	
10/20	えんぱくプログラム	伊勢えびの裁き方教室
11/2 3	道作り会議	佐賀県にて
11/10 11	北浦中学校職場体験学習	3名の生徒の受け入れ
11/20	東児湯鍋合戦	北浦婦人会と合同での参加
12/1 2	北浦町楠並木物産展	
1/2	初 商	
1/16	研修会	おもてなしマイスター研修会 6名参加
1/20~4/8	カンパチ&豆乳祭り	かんぱち805食 豆乳241食 イセエビ64食
2/2		水道事業者セミナー
2/7		レジオネラ講習会
2/9	消防訓練	
2/15		酒類販売研修
2/21		農水省食品表示セミナー
2/23 24	北浦町楠並木物産展	
3/3 4		ご当地グルメパラダイス イン 延岡
3/21~31	延岡ブルーツーリズム	ランチとクルーズのミニツアー ランチ219食 クルーズ14名
3/29	第2回役員会	道の駅ミニシアターにて

## 北浦総合産業株式会社 平成24年度 事業計画

平成22年度は口蹄疫と鳥インフルエンザ、平成23年度は東日本大震災と新燃岳の噴火など、信用不安による経済悪化にこのような事象が重なり、日本中を巻き込む経済不況が現在も続いている。

このような状況下において会社の運営をしていくためには、社員一丸となった営業努力はもちろんのこと、人件費や管理運営費の圧縮・節約をめざし、長期的視野に基づいた戦略が必要となる。さらに、平成24年度中に開通する高速道路を見据えた店舗運営が求められるいま、現在の努力を重ねながら新しい地域の魅力の掘り起こしと、北浦の魅力の発信基地としてのポテンシャルを高めることを目指す。

### 《施設》

浜木綿村 ケビン・常設テント・オートキャンプ場・テニスコート・パークゴルフ場

- ・ ケビンの老朽箇所を速やかに修繕し、利用者の安全と利便性の向上に努める。
- ・ 施設利用者への気象や災害に関する情報を提供出来る環境整備に努力する。
- ・ 管理費や人件費の抑制に努め、効果効率の向上に努力する。

道の駅 物産販売所・軽食コーナー

- ・ 出店者と協力して店内の品揃えや棚出しを不足無く円滑に行う。
- ・ 実演販売のスペースを地域の魅力のアピール場とすべく商品開発を行う。
- ・ 食品の表示については、引き続き公的機関主催の研修会等に参加して知識を高め、納品業者と協力し、利用者に対して安心して安全なものを提供できるようにする。
- ・ 軽食の提供に関しては、特に衛生面に注意しながら販売に努める。

レストラン海鮮館

- ・ 衛生管理の徹底を図る。また、必要に応じた研修を行い利用者の信頼にこたえと共に適正原価を守り、利益の確保に努める。
- ・ 北浦地区ならではの地域食材に着目した商品開発に努め、利用者のニーズと期待に応えるよう努力する。

その他 ミニシアターなど

- ・ マイクロバス送迎の活用を努め、ミニシアターなどの利用者の増加を図る。
- ・ 駐車場等の花壇の手入れなど、施設の美化に努力する。
- ・ 観光協会やレジャー施設協議会、各種団体と連携を図り、地域の魅力の創出とアピールを図る。

塩・にがり製造

- ・ 工場の一日も早い再開を目指し、消費者のニーズに応えるよう努力する。
- ・ 工場再開後は安全で衛生的な「塩・にがり」を生産し、商品の定期検査等を実施していく。

#### 末越レジヤーク

- ・ 台風や突風など気象変化に即応した施設管理を心がける。
- ・ サービス向上のため、練習球の適切な補充やマットの入れ替え等を行う。

#### 派遣事業・給食センター運営

- ・ 事業が適切に行われるよう運営ならびに人事の管理など関係機関と連携協力をする。
- ・ 定められた基準に従い必要に応じて職員を研修会等に出席させる。

